

2021年度第2四半期決算説明資料

2021年10月29日

皆さんこんにちは。小澤でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、2021年度第2四半期決算の実績につきまして、資料に沿ってご説明申し上げます。

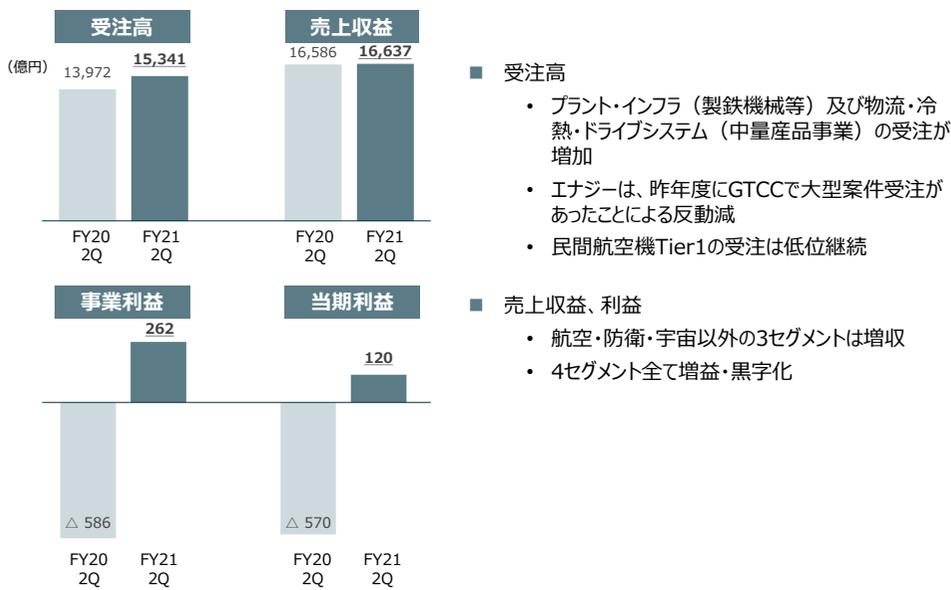
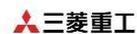
I. 2021年度第2四半期決算実績

- 連結経営成績サマリー 4
- 連結財政状態 6
- キャッシュ・フロー 8
- セグメント情報 9-12
(受注高・受注残高/売上収益/事業利益)
- 事業利益増減分析 13
- コロナ影響を受けた主な事業の現況 14
- 第2四半期決算の総括 15

II. 2021年度業績見通し 17-18**III. 補足資料 20-25**

I . 2021年度第2四半期決算実績

連結経営成績サマリー



- 受注高
 - ・ プラント・インフラ（製鉄機械等）及び物流・冷熱・ドライブシステム（中量産品事業）の受注が増加
 - ・ エナジーは、昨年度にGTCCで大型案件受注があったことによる反動減
 - ・ 民間航空機Tier1の受注は低位継続
- 売上収益、利益
 - ・ 航空・防衛・宇宙以外の3セグメントは増収
 - ・ 4セグメント全て増益・黒字化

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

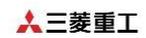
2021年度第2四半期決算実績の全体概要を説明します。
 スライドの4ページと併せ、5ページの数表もご参照ください。

受注高は前年同期から約10%増の1兆5,341億円であり、2021年度第1四半期決算に引き続き、プラント・インフラセグメントと中量産品事業が大きく増加しています。

売上収益および各段階の利益は、前年同期比で増収増益となり、昨年度からの回復傾向が表れています。

事業利益は、4セグメントとも黒字になりました。

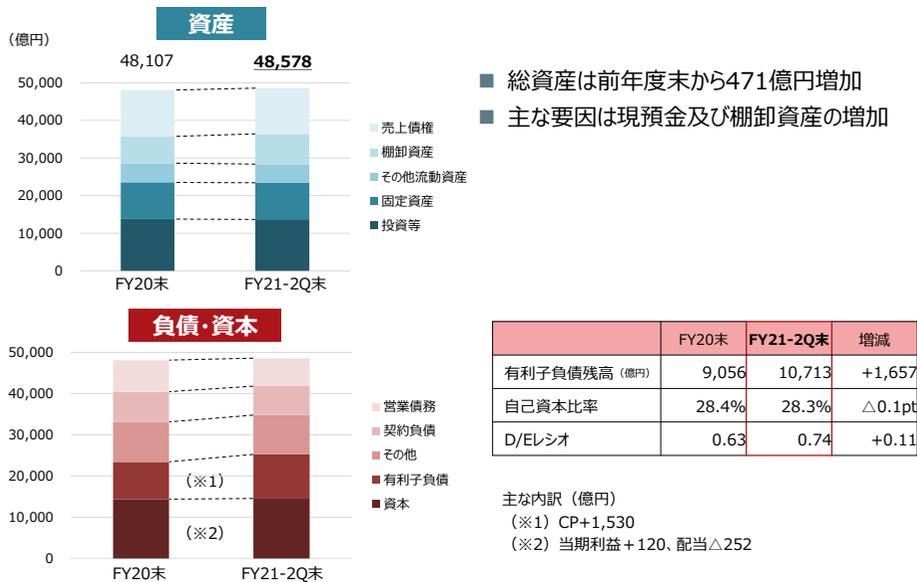
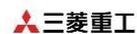
連結経営成績サマリー



(億円)

	2020年度2Q		2021年度2Q		増減	
	(利益率)		(利益率)		(増減率)	
受注高		13,972		15,341	+1,369	(+9.8%)
売上収益		16,586		16,637	+51	(+0.3%)
事業利益	(△3.5%)	△586	(1.6%)	262	+848	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(△3.4%)	△570	(0.7%)	120	+691	-
EBITDA	(0.6%)	104	(5.4%)	909	+805	-
フリーCF		△4,971		△1,380	+3,590	-

連結財政状態



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

6ページと7ページでは、バランスシートの状況についてご説明します。

運転資金の増加等により総資産が前年度末から増加していますが、これは通常の当社の資金の動きであり、想定通りに推移しています。

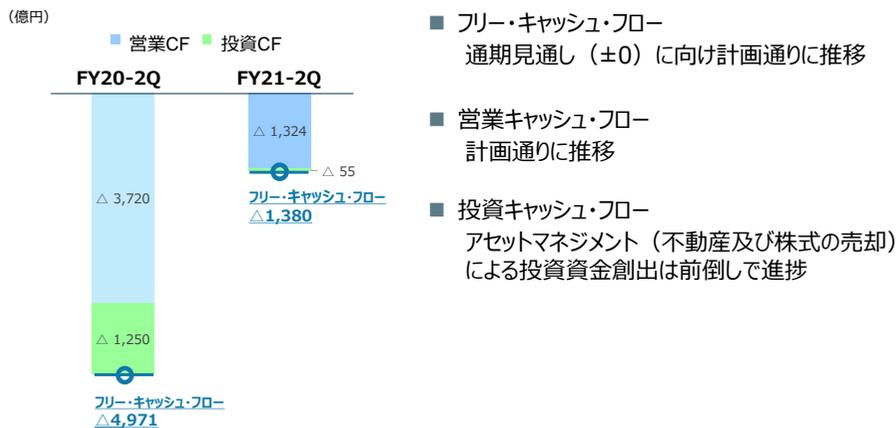
有利子負債等のレベル、各指標の水準についても、年度首の計画範囲内です。

連結財政状態



	(億円)		
	FY20末	FY21-2Q末	増減
売上債権（営業債権、契約資産）	12,341	12,141	△199
棚卸資産	7,134	8,067	+932
その他流動資産	5,070	4,887	△183
（現金及び現金同等物）	(2,454)	(2,596)	(+141)
固定資産	9,789	9,751	△38
投資等	13,771	13,731	△39
資産合計	48,107	48,578	+471
営業債務	7,637	6,768	△868
契約負債	7,318	7,006	△311
その他	9,701	9,553	△148
有利子負債	9,056	10,713	+1,657
資本	14,393	14,536	+142
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(13,663)	(13,770)	(+107)
負債・資本合計	48,107	48,578	+471

キャッシュ・フロー



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

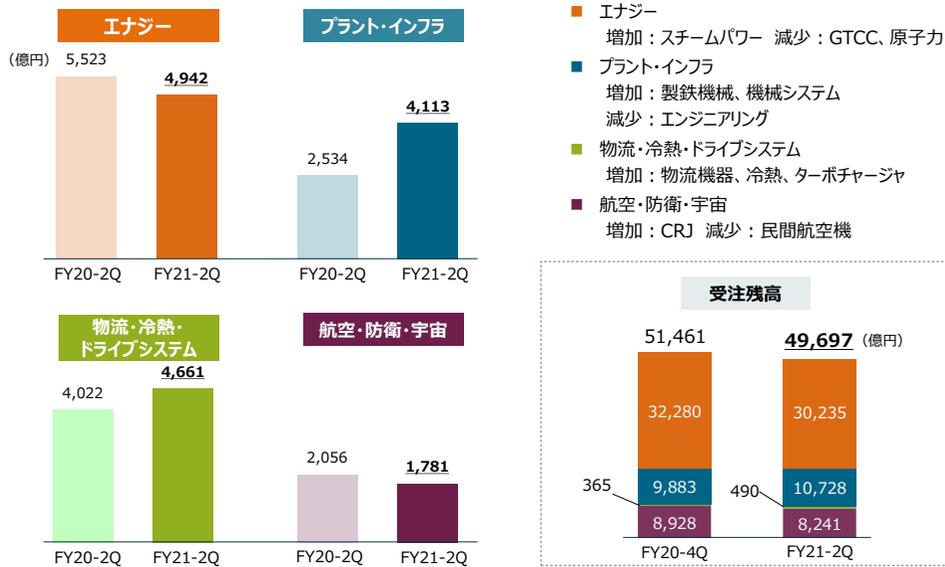
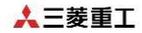
スライド8ページには、キャッシュ・フローの状況を記載しています。

営業キャッシュ・フローについては、昨年度に引き続き、過去に受領していた前受金見合いの支出が大きいことからマイナスではあるものの、新型コロナウイルスによる影響も解消されつつあり、前年同期から大きく改善しています。

また、投資キャッシュ・フローについても、昨年度CRJ事業買収があった民間航空機関連の支出が大きく減少していることに加え、株式売却等のキャッシュインもあり、前年同期から改善しています。

半期を終えた時点で、フリー・キャッシュ・フローとしては、年間見通しに対して想定通りか、やや改善傾向にある進捗となっています。

セグメント別 受注高・受注残高



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

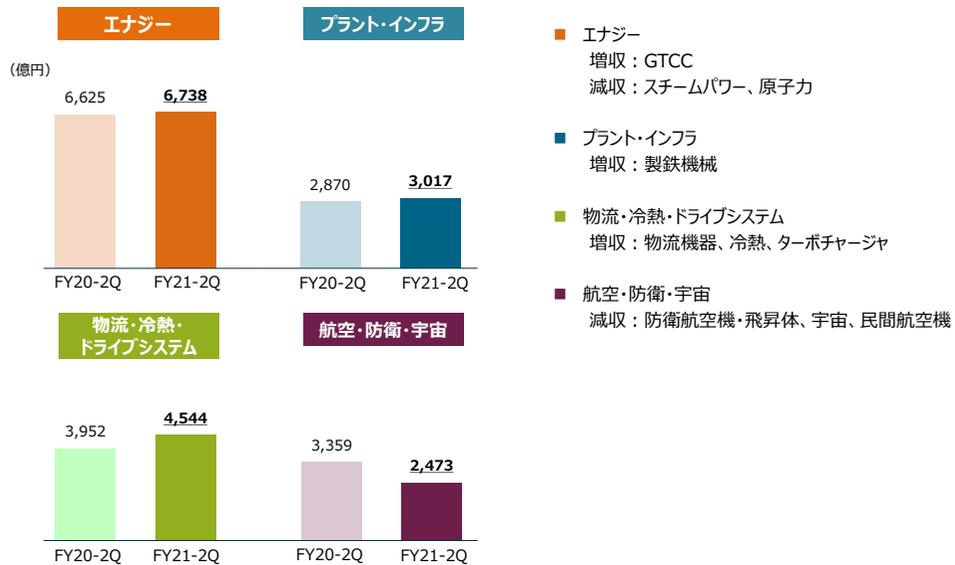
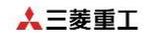
9

スライド9ページが、セグメント別の受注の状況です。

当期の受注高は、プラント・インフラセグメントと物流・冷熱・ドライブシステムセグメントで、前年同期を大きく上回りました。

プラント・インフラセグメントは、製鉄機械や機械システム、物流・冷熱・ドライブシステムセグメントは、物流機器や冷熱が増加の主要因です。

セグメント別 売上収益



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

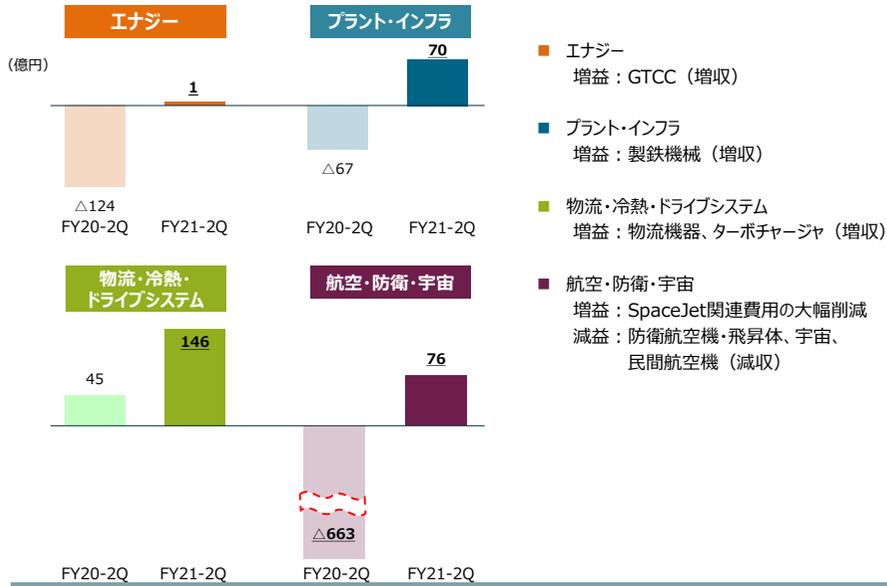
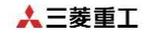
10

スライド10ページは、売上収益の状況です。

航空・防衛・宇宙セグメントは、宇宙事業で当期はロケットの打ち上げがなかったこと、民間航空機のTier1（Boeing向けを中心とした機体の供給事業）で出荷機数が減少していることなどから、減収しました。

他の各セグメントは、前年同期が新型コロナウイルスの影響による大きな落ち込みからの回復が見られ、増収となりました。

セグメント別 事業利益



スライド11ページは、事業利益のセグメント別内訳です。

全セグメントで黒字化、増益となっています。

2021年度第2四半期決算実績 セグメント別内訳



(億円)

	受注高			売上収益			事業利益		
	FY20 2Q	FY21 2Q	増減	FY20 2Q	FY21 2Q	増減	FY20 2Q	FY21 2Q	増減
エネルギー	5,523	4,942	△581	6,625	6,738	+112	△124	1	+125
プラント・インフラ	2,534	4,113	+1,579	2,870	3,017	+146	△67	70	+137
物流・冷熱・ ドライブシステム	4,022	4,661	+638	3,952	4,544	+592	45	146	+100
航空・防衛・宇宙	2,056	1,781	△275	3,359	2,473	△885	△663	76	+739
その他	△164	△157	+7	△221	△136	+84	222	△33	△255
合計	13,972	15,341	+1,369	16,586	16,637	+51	△586	262	+848

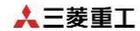
© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

12

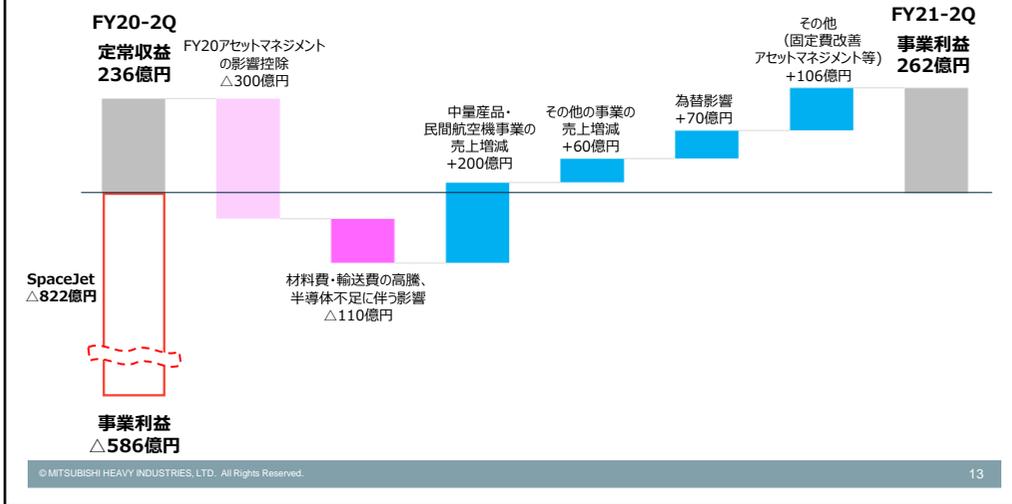
スライド12ページは、セグメント別の受注・売上・利益をまとめたものです。

なお、スライド20ページ以降に各セグメントの補足資料を掲載しています。

事業利益増減分析



- 前年度のアセットマネジメントによる増益効果の剥落に加え、材料費・輸送費の高騰や半導体不足に伴う減益影響があったものの、コロナ影響を受けた事業の回復や、固定費改善等の施策により、前年度定常収益を上回る事業利益を確保



本スライドでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明します。

棒グラフの一番左端、2020年度第2四半期の事業利益は586億円の損失であり、SpaceJet関連損失を除外すると236億円の利益でした。

2021年度第2四半期の事業利益は、右端の棒グラフ262億円となりましたが、その差異の要因をピンク色及び青色の棒グラフで示しています。

左の薄いピンク色の棒グラフ、2020年度アセットマネジメントの影響控除とありますが、2020年度第2四半期に名古屋の岩塚工場跡地の土地売却益約300億円が含まれていたのを控除しているものです。

その右隣のピンク色の棒グラフ、△110億円は、2021年度に入ってから材料費や輸送費の高騰、半導体不足等に伴う減産で生じた減益影響を示しています。

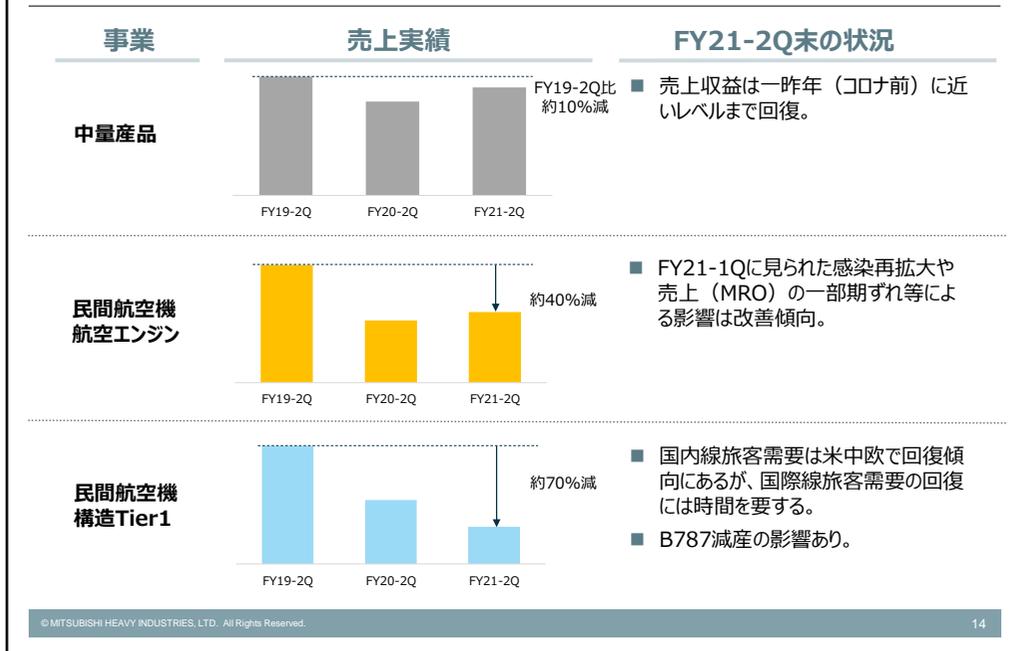
新型コロナウイルスによる影響からの回復の効果は、その右側の二つの青色の棒グラフ、+200億円と+60億円に主として表れていると考えています。中量産品・民間航空機関連事業におけるコロナ影響については、次ページで補足します。

為替影響は前年同期と比較して、為替レートがドル、ユーロとも円安傾向に推移していることが影響しています。

その他は、工事採算の改善、固定費削減効果などによるものです。

なお、本日の適時開示で、川崎市に当社が保有する土地の売却に関するお知らせをしておりますが、当該土地の売却益については、第3四半期に計上する予定であり、今期決算には含まれておりません。

コロナ影響を受けた主要事業の現況



本スライドは、新型コロナウイルスによる影響が直接的に大きく表れている、中量産品事業と民間航空機関連事業の状況をまとめたものです。

中量産品と航空エンジンの売上収益は、期初想定通り、概ね回復傾向にありますが、自動車の減産やサプライチェーンの混乱の影響で、中量産品については回復ペースがやや鈍っている印象です。

また、民間航空機のTier1の売上収益は、新型コロナウイルス感染拡大前から大きく落ち込んだ前年同期をさらに下回る水準となりました。完成機メーカーでの生産調整が長引いており、年度合計でも期初の見通しを下回ることになるものと見ています。

■ 受注

民間航空機等で市況の厳しさは残るものの、製鉄機械を中心に回復基調。

■ 売上収益、利益

- ・ 全セグメントで前年同期比増益。
- ・ 材料費・輸送費高騰や半導体不足の影響があるものの、下期の売上進捗予想等を踏まえ、事業セグメントの通期業績見通し達成を見込む。
- ・ アセットマネジメント効果の上振れにより、全社の通期事業利益及び当期利益見通しをそれぞれ100億円上方修正。

■ キャッシュ・フロー

アセットマネジメント（不動産及び株式の売却）による流動化を推進し、エナジートランジション領域への成長投資を加速。

2021年度第2四半期決算の総括としては、第2四半期に入って一部事業でマイナス要因が表れたものもあるが、改善傾向にあるものもあり、全体としては、年度計画の達成に向けて進捗していると評価しています。

Ⅱ. 2021年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

従いまして、この業績見通しのみによって投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。

実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2021年度業績見通し サマリー



期首公表値 (2021年5月10日) から一部見直し

(億円)

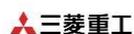
	2020年度実績		2021年度見通し		対前年度増減 (増減率)	
	(利益率)		(利益率)	今回見通し		
受注高		33,363		36,000	36,000	+2,637 (+7.9%)
売上収益		36,999		37,500	37,500	+501 (+1.4%)
事業利益	(1.5%)	540	(4.3%)	1,600	1,500	+1,060 (+196.3%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(1.1%)	406	(2.7%)	1,000	900	+594 (+146.3%)
ROE		3.1%		7.1%	6.5%	+4.0pt -
EBITDA	(5.2%)	1,933	(7.7%)	2,900	2,800	+967 (+50.0%)
フリーCF		△2,771		0	0	+2,771 -
配当		75円 (中間0円/期末75円)		90円 (中間45円/期末45円)	90円	【前提為替レート】 【未確定外貨】 1ドル = 110 円 29億ドル 1ユーロ = 130 円 3億ユーロ

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

17

2021年度の業績見通しについては、第2四半期までの進捗と今後の計上予想を踏まえ、5月時点の公表値から、事業利益と当期利益をそれぞれ100億円上方修正しました。

2021年度業績見通し セグメント別内訳



期首公表値（2021年5月10日）から一部見直し
 （アセットマネジメント効果の上振れにより、その他セグメントの事業利益を100億円上方修正）

（億円）

	受注高				売上収益				事業利益			
	FY20 実績	'21年度見通し 今回見直し	期首 公表値	対前年度 増減	FY20 実績	'21年度見通し 今回見直し	期首 公表値	対前年度 増減	FY20 実績	'21年度見通し 今回見直し	期首 公表値	対前年度 増減
エネルギー	12,992	14,000	14,000	+1,008	15,460	16,000	16,000	+540	1,276	1,000	1,000	△276
プラント・インフラ	5,752	7,000	7,000	+1,248	6,372	6,500	6,500	+128	△102	200	200	+302
物流・冷熱・ ドライブシステム	8,680	9,500	9,500	+820	8,603	9,500	9,500	+897	156	300	300	+144
航空・防衛・宇宙	6,262	6,000	6,000	△262	7,021	6,000	6,000	△1,021	△948	200	200	+1,148
その他	△324	△500	△500	△176	△457	△500	△500	△43	158	△100	△200	△258
合計	33,363	36,000	36,000	+2,637	36,999	37,500	37,500	+501	540	1,600	1,500	+1060

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

18

各事業セグメントの通期見通しについては変更なく、その他セグメントのみを100億円上方修正しています。

エネルギーセグメントの上期の事業利益の進捗が低調に見えますが、これは2021年度第2四半期において、一部の工事において引当を実施した一時的な影響です。

2020年度下期のエネルギーの事業利益は1,400億円であり、洋上風車(MVOW)の株式の譲渡益等の特殊要因を除外しても約1,000億円の事業利益であったことから、2021年度の通期見通しも達成可能であると考えております。

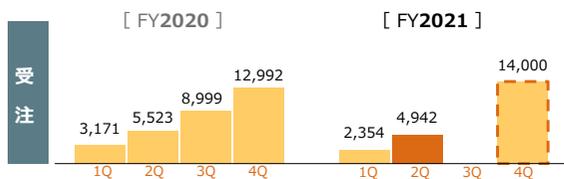
以上で、2021年度第2四半期決算の説明を終了します。

Ⅲ. 補足資料

補足資料 第2四半期決算実績〈エナジー〉

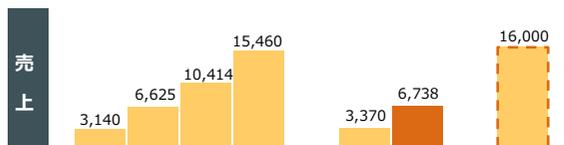


(億円・各期の数値は累計)



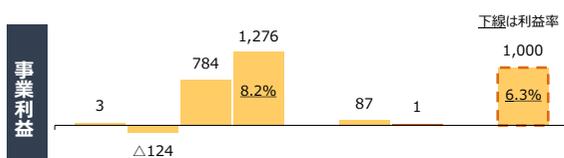
(主な事業の受注)

	FY20-2Q	FY21-2Q
GTCC	2,500	1,894
スチームパワー	907	1,437
航空エンジン	252	236
原子力	1,116	804



(主な事業の売上)

	FY20-2Q	FY21-2Q
GTCC	2,148	2,545
スチームパワー	2,504	2,328
航空エンジン	231	262
原子力	944	802

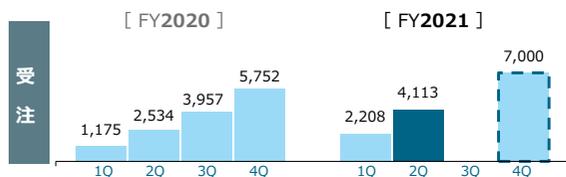


- ・ スチームパワーの受注は、バイオマス発電所新設案件が寄与し、前年同期比増加。
- ・ セグメント全体の事業利益は、IGCC（勿来、広野）の不適合発生などにより低調。
- ・ 火力のアフターサービスや原子力を中心に、下期に売上が集中する計画であり、通期の利益目標は達成を見込む。

補足資料 第2四半期決算実績 (プラント・インフラ)

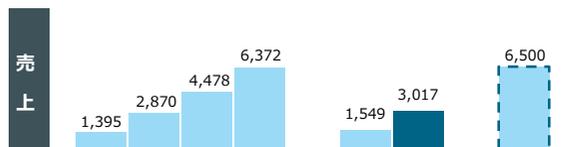


(億円・各期の数値は累計)



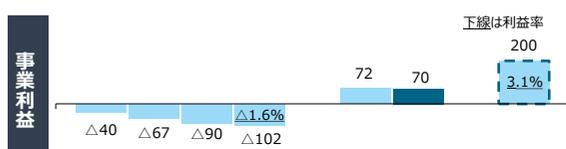
(主な事業の受注)

	FY20-2Q	FY21-2Q
エンジニアリング	867	568
製鉄機械	535	1,850
機械システム	561	804



(主な事業の売上)

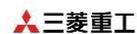
	FY20-2Q	FY21-2Q
エンジニアリング	701	662
製鉄機械	917	1,077
機械システム	621	609



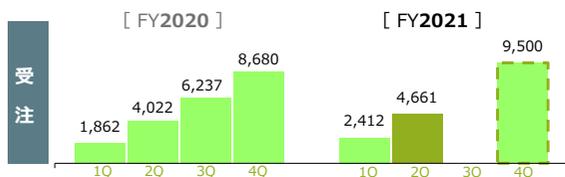
下線は利益率
200

- ・ 製鉄機械の受注は、世界的なコロナ影響からの回復に伴う鉄鋼需要増大などを背景に好調。
- ・ 海外の一部工事の追加費用や拠点統廃合に伴う損失により、2Qの事業利益を押し下げ。

補足資料 第2四半期決算実績〈物流・冷熱・ドライブシステム〉

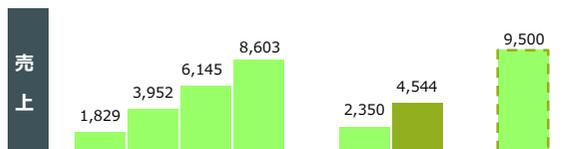


(億円・各期の数値は累計)



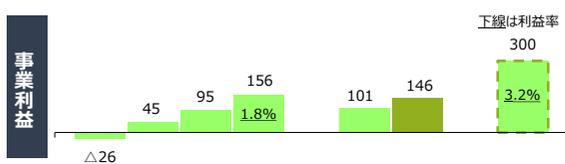
(主な事業の受注)

	FY20-2Q	FY21-2Q
物流機器	1,846	2,146
エンジン・ターボチャージャ	1,017	1,180
冷熱・カーエアコン	1,184	1,376



(主な事業の売上)

	FY20-2Q	FY21-2Q
物流機器	1,846	2,146
エンジン・ターボチャージャ	1,024	1,140
冷熱・カーエアコン	1,109	1,299

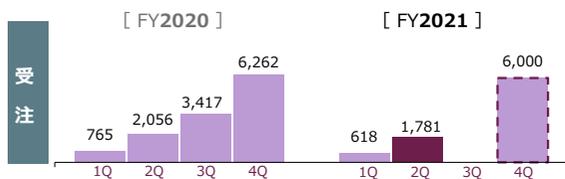


- ・ 市況は全般的に回復傾向にあるが、自動車メーカーの生産調整や半導体不足の影響を受け、2Qの売上は1Qと比較して伸び悩んだ。
- ・ 材料費・輸送費の高騰や半導体不足の減益影響があるものの、売価アップ等でカバー。

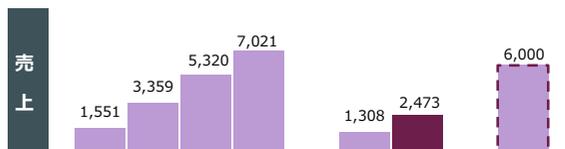
補足資料 第2四半期決算実績〈航空・防衛・宇宙〉



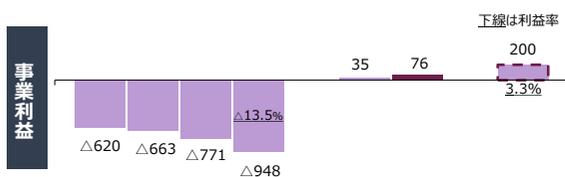
(億円・各期の数値は累計)



	FY20-2Q	FY21-2Q
防衛・宇宙	1,327	1,207
民間機	729	574



	FY20-2Q	FY21-2Q
防衛・宇宙	2,509	1,900
民間機	849	573



- ・ 民間航空機のTier1事業は、Boeing減産の影響により減収。
- ・ セグメント全体では、固定費削減他コストダウン施策の効果により、前年同期比増益かつ黒字。

ガスタービン 受注台数・契約残台数

大型	FY20 2Q	FY20 通期	FY21 2Q	中小型	FY20 2Q	FY20 通期	FY21 2Q
米州	-	4	-	米州	-	6	-
アジア	2	4	2	アジア	-	-	1
EMEA	3	3	-	EMEA	-	-	-
その他	-	2	2	その他	-	-	-
合計	5	13	4	合計	0	6	1
契約残台数	45	48	46	契約残台数	13	5	6

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計	787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	3	10	7	4	24	FY2020	3	3	0	1	7	FY2020	18	32	20	14	84
FY2021	5	4	/	/	/	FY2021	2	1	/	/	/	FY2021	14	5	/	/	/

補足資料 参考データ



研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位：億円)

	FY20-2Q	FY21-2Q	FY21見通し
研究開発費	595	509	1,300
減価償却費	690	647	1,300
設備投資	578	565	1,200

販売費及び一般管理費

(単位：億円)

	FY20-2Q	FY21-2Q
販管費	2,575	2,668

為替レート (売上計上平均レート)

	FY20-2Q	FY21-2Q
USドル (円/USドル)	107.1	109.1
ユーロ (円/ユーロ)	121.1	130.0

MOVE THE WORLD FORWARD

**MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP**